

いわた 文化財だより 第199号

目次

- 企画展「歴史資料から見た磐田の近代教育」P1～2
- 旧赤松家記念館かすりの着物で写真撮影・・・P3
- 津倉家住宅見学会開催のお知らせ・・・P4
- コラム『遠江国で採れた石塔の石材は？』
木村弘之・・・P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和3年10月1日発行

歴史文書館企画展を開催します！

ながふじ学府小中一体校開校記念・学制発布150年

歴史資料から見た磐田の近代教育

～校務日誌・沿革誌から探る～



福田尋常
小学校
『校務日誌』

袖浦尋常
小学校
『学校沿革誌』

豊浜尋常小学校
『校務日誌』（市指定文化財）

富岡尋常高等小学校鬼瓦

袖浦尋常高等小学校
『学校沿革誌』

令和3年11月1日(月)～12月17日(金)

- ☐ 休館日 土曜日・日曜日・祝日
- ☐ 時間 9:00～17:00 (入場は16:30まで)
- ☐ 入場料 無料
- ☐ 会場 磐田市歴史文書館展示室
(磐田市竜洋支所内)
- ☐ 問合せ先 磐田市歴史文書館 TEL 0538-66-9112



歴史文書館イメージキャラクター
『文字朗』



明治維新によって様々な改革が進められる中、明治5年(1872)8月、新政府により発布となった「学制」の「邑(むら)ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン」という言葉が近代日本の小学校教育の原点となりました。これには、近代国家建設の基礎を教育に置くという重大な意義が込められていました。

そして今年、令和3年4月に「ながふじ学府小中一体校」が開校し、磐田の教育もさらなる進化へ向けてスタートを切りました。来年は、「学制」発布から150周年の節目の年に当たります。明治から令和へと時代をつないできた磐田の教育も大きな変化の時期を迎えています。

本企画展では、見付学校の創設と校舎建築に代表される「磐田の近代初等教育」の進展、人々の教育にかけた熱い思いや願い、尽力・支援、苦勞等について、各学校に残された「沿革誌」「校務日誌」を資料として探っていきます。

みどころ1

江戸時代の教育

—筆子と師匠—

江戸時代には、寺子屋と言って、農民や町人に読み・書き・そろばんを教える場がありました。

寺子屋では、教師を師匠とか手習い師匠と呼び、弟子を寺子・筆子と呼びました。学習の多くは、手習いと言った読み物や書き物でした。



「教材」の一つとして使われた『庭訓往来』

手習いは「いろは」・数字などから始め、干支・方角・村名尽・百官名・国尽・庭訓往来などが教材として用いられました。これらを通して、江戸時代の日本は既に高い教育水準を誇っていました。

師匠の恩恵を受けた筆子たちは師匠の徳を讃え、生前に「寿塔」、没後に「筆子塚」を造り、現在でも市内に見られます。



左写真：遠江国分寺「筆子塚」(見付) 側面には「于時明治五年壬申十月五日寂 筆子中」と刻字される。この形の墓石は「卵塔」と言って、僧侶の墓石である。(現在、工事中で見られません。)

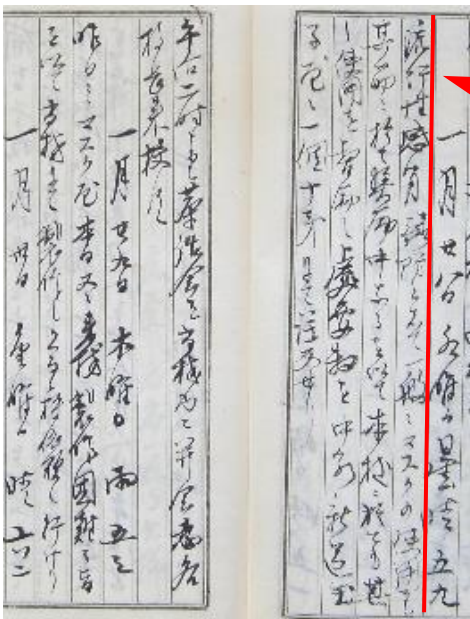
みどころ2

伝染病との闘い

—教育現場での対策—

大正7年(1918)、スペイン風邪が世界的に大流行(パンデミック)し、その波は日本にも押し寄せ、大正7年から10年(1921)にかけて大流行しました。

左の写真は、スペイン風邪の流行予防としてマスクの使用を奨励する大正9年の豊浜尋常小学校の校務日誌(市指定文化財)です。感染症対策としてマスクの使用を促しています。また、他校の校務日誌や沿革誌からも家族に患者がいる児童は出席停止にするなど、感染症対策が現在と同じように取られていた様子が分かります。



流行性感冒予防として一般ニ

マスクの使用は其筋ニ於て奨励中

豊浜尋常小学校『校務日誌』(市指定文化財)

みどころ3

東京からの疎開

—子どもたちも戦争の時代を生きた—

右の写真は太平洋戦争中の昭和19年頃、富岡村(現磐田市加茂)の大円寺に疎開した、東京の北浦国民学校児童が暮らす様子を写したものです。この児童は、富岡村国民学校(現ながふじ学府：磐田市立豊田北部小)へ通いました。

また、中泉尋常高等小学校(現磐田中部小・磐田西小)の沿革誌には、「昭和19年8月29日、東京の蒲田区矢口西国民学校4年生87名を、6年生が代表して駅に出迎え、受け入れた」とあります。

太平洋戦争は子どもたち、教育現場にも影響を及ぼしました。

2/4 いわた文化財だより 第199号



『ふるさと豊田写真集』より(旧豊田町発行)

10月1日から受付開始！

旧赤松家記念館かすりの着物で写真撮影

かすりの着物を着て、旧赤松家記念館で写真を撮ってみませんか。県指定文化財の門と塀、施設内にある庭などお好きな場所で撮影していただけます。

日時：11月13日（土）

A 9：30～10：30 **B** 10：30～11：30

C 13：30～14：30 **D** 14：30～15：30

会場：旧赤松家記念館

対象：かすりの着物は幼児～小学生着用可

定員：**A**～**D**各時間帯5人

着物の枚数に限りがありますので、着物の数（サイズ別）に達した時点で〆切とさせていただきます

申込方法：①参加者名（ふりがな） ②性別 ③園・学校名 ④年齢・学年 ⑤身長 ⑥希望時間帯（**A**～**D**）第1希望・第2希望 ⑦保護者の住所・氏名・電話番号を明記し、FAX またはハガキで旧赤松家記念館までお申し込みください。また、旧赤松家記念館窓口にて直接申し込むこともできます。

参加費：無料

その他：写真撮影、散策同行は保護者の方をお願いします。感染症の状況によって内容の変更・中止の可能性もあります。



塀の前でしっぺいと1枚



レンガの柱の陰からひょっこり

申込、ご来館
お待ちしております



<申込・問合わせ>

旧赤松家記念館 **入館無料**

見学時間 9：00～16：30

休館日 月曜日・祝日の翌日

〒438-0086 磐田市見付 3884-10

TEL&FAX 0538-36-0340



浴衣での記念撮影

耳より情報！

思い出の写真を、ぜひ旧赤松家記念館で！

記念写真、“映える”写真を撮ってみませんか

旧赤松家記念館では、結婚式の前撮り撮影、成人式の記念撮影などの撮影場所としてもご利用いただいています。

（衣装・更衣室は用意しておりません。撮影は各自でお願いします。）

詳しくは、旧赤松家記念館にお問い合わせください。

津倉家住宅見学会開催のお知らせ

今年も、明治22年(1889)に建てられた豪商・廻船問屋「津倉家」の見学会を開催します。掛塚湊の繁栄の歴史を伝える貴重な文化財をご覧ください。

- 日時 令和3年10月16日(土)・17日(日) 申込不要・見学無料
- 見学時間 9:00~16:00(入場は15:30まで)
- 駐車場 天竜川掛塚橋南側河川敷駐車場
(感染症の状況によって内容の変更・中止の可能性もあります。)



津倉家住宅外観

津倉家のみどころについては文化財だより117号をご覧ください。

昭和10年に増築された洋間

【問い合わせ】磐田市歴史文書館(土・日・祝日休み) TEL 0538-66-9112

職員リレーコラム

遠江国で採れた石塔の石材は？

木村 弘之

私は長く、仲間らと県内の中世石塔を悉皆調査していますが、中世前半(14世紀代)までは、西部地方(遠江国)では採れない石材が実に多く使用されていることに気がきます。これは、当国が堆積岩地帯で、石造物を造る石材がなかったからです。堆積岩というのは、砂や泥もしくは礫などが長い年月をかけて固まった岩石です。

堆積岩は元来、石造物に向かない岩石です。豊岡支所玄関前の「敷地石」も堆積岩の一例です。「敷地石」とは「孕石礫岩」のことで、掛川市孕石地区を中心に広く分布しています(参考:『静岡県 地学のガイド』1992)。粗い砂岩(砂が固まった岩石)と小礫が固まったもので、風化が進むと素材の砂が脆くなり、硬い礫はポロポロ落ち、小石が次々と生まれるように見えることから「孕石」と名付けられました。ここから、この岩石の上に建つ、掛川市の孕石神社は「子宝が授かる神社」(孕石を持ち帰り、腹に巻き祈願する)として有名だそうです。



豊岡支所玄関前の「孕石礫岩」

しかし、その中でも中世後半(15世紀)になると石造物に使われた堆積岩が現れます。それは、「孕石礫岩」よりもさらに粒子が細かい砂岩です。粒子が細かく柔らかい石材なので彫り易いのですが、反面、割れ易く、微細な細工はできません。また、風化に弱いのが難点です。これにも関わらず、戦国時代には「一石五輪塔」という供養塔が大量に造られます。

このように、中世石塔を調査すると、地元・遠江国で採れる石材を、中世の後半になってようやく探し出せたと言えます。

編集後記
文化財だよりも199号。来月はいよいよ200号!このうちの何号分を編集してきたかと思うと色々感慨深いです。来月もぜひ、お読みください!

発行: 磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所: 〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話: 0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 磐田 文化財だより 検索